

## 父から学んだ「約束を守る」という職業倫理

今日は「それぞれの職業奉仕」というテーマで、私自身の体験を交えてお話しさせていただきます。最初に、私が「職業奉仕って、特別な立派な人だけができることだ」と思っていたことについてお話ししたいと思います。でも、ある出来事をきっかけに、私はそれが間違いだと気づいたのです。

私の父は、40歳を過ぎてから、会社員をやめて全く新しい仕事、刺繍業を始めました。経験もなく、しかも子供が3人もいる状況での決断でしたから、今振り返るとかなり勇気のある挑戦だったと思います。父がよく言っていたのは、「約束はどんなことがあっても守れ」という言葉です。忙しくて寝る間もない日々が続く中でも、仕事の納期を守るために必死に働いている姿を見てきました。そんな父の姿を見て、私は、「約束を守る」ということの大切さを強く感じました。

2011年3月11日の東日本大震災。あの日、私たちの地域も大きな影響を受け、通信も途絶え、物資が届かない状況が続きました。もちろん会社も大きな影響を受け、納品ができない状態が続きました。東京からも何度も問い合わせがありましたが、なかなか連絡もつかないし、どうしたらいいのか分からない状況でした。でも、父は焦らず冷静に対応策を考えました。

最終的に、新潟まで品物を運んで何とか納品しようと決めたのです。雪が降っていて、燃料も足りない状況の中でしたが、父は、「無理だ」と言わず、何とかして届けようと全力を尽くしました。そして、そのおかげで、無事に納品が完了しました。後日、東京のお客様から、「本当にありがとう、あの時対応してくれたのはあなたたちだけだった」と感謝の言葉をいただきました。今でもそのお客様とは良い関係が続いていて、あの時の対応を今でも覚えていてくれることに、父は誇りを感じていると思います。

この経験から、私は職業奉仕について深く考えるようになりました。職業奉仕というのは、特別な人だけができることではなく、日々の仕事の中で約束を守り、責任を果たすことだと思います。父が見せてくれた「約束を守る」という姿勢が、私の心の中で大切な職業倫理となり、今でもその教えを大事にしています。

ロータリークラブに「職業奉仕」という理念があります。ロータリーは、私たち一人一人が自分の職業を通じて社会に貢献することを大切にしています。どんな職業でも、倫理を守り、誠実に取り組むことが、社会にとって大きな意味を持つということです。

職業奉仕は、特別な行動をすることではなく、日々の仕事の中で自分ができる最善を尽くすことだと、私は父から学びました。これからも、その教えを胸に、ロータリーの一員として、職業を通じて社会に貢献していきたいと思えます。